



河童(女)

川辺に現れた女の河童。河童(男)の獲ってきた魚を食べていた。常に眠そうだが困ったような顔をしているのが特徴。河童なので肌は緑色だが、スタイルはなかなかいい。

女

名は「雪水ひなた」という。年齢=彼氏なしの処女。祖父の遺産を継ぎ山に囲まれた古民家に居を移す。そこで見つけた妖怪画から、河童の現れるという川辺に足を踏み入れる。いい年なのだが性に対しては悪い方面で思春期の男子並み。例えるなら「シックス」という言葉にも反応する始末。無自覚な変態。



河童(男)


ひなたが初めに目撃した男の河童。毎日のように魚を獲ってきては運んでいる。だが、本人がその魚を食べている姿は目撃されていない。河童(女)よりも小柄。

じいちゃんが死んだらしい。「らしい」って言うのは、既に葬儀も終わって大分日が経ってから私に知らせがきたからであって……。非情のようだが大して悲しくもなかった。だって、最後に会ったのは私がかかり小さいときだったから、記憶が曖昧だし……。

更に、それを知らせに来たのがじいちゃんの代理人を名乗る人でなんと私に遺産相続の権利があるとの事で……。内容は土地系のものばかりで面倒だと思ったが税金やらの類は代理人がやってくれるらしく、私はその土地の「表札」的な存在としてのんびりスローライフを満喫するなりしていればいいという突飛なもので……。両親は海外を飛び回っているため興味もないらしく、どうやら遺産の件は前から知っていたらしい……。当の私は、今の仕事は大して面白くもない上に無駄に忙しいわけで……。人間関係も希薄で……。結果、その表札役を快く引き受けたというわけです。

いやだって、窮屈な毎日から開放されて、のんびり生活……。
懂れるじゃない……。

小さい頃に遊びに行つて以来だけど、私は新たな人生を始めるつもりで居を移すことにした。



……………。こちら一帯がじいちゃんから相続した土地らしい。。
とんでもないところに来てしまった……。まさしく田舎…。いや、
辺境の地？山に囲まれたど田舎に、爺ちゃんの住んでた大きい目の
古民家がポツンと…。この古民家が新たな私の家なわけですが…。
やっていけるのか不安です。だって、携帯の電波届きませんよ？
ご近所さんと呼べる家もすっごく離れてる。ネットは…。一応ある
けどなんか遅いな…。代理人目く、困ったら電話で連絡してくれれ
ば…。とのことだけど、大丈夫かな。。

……いやはや……慣れって凄いな。一月と経たずに順応した感じ。

スーパーやコンビニの類はなくても野菜や山菜が盛りだくさんで、やや離れたところに住んでる猟師さん達が猪や鹿の肉をくれたりお酒を分けてくれたりであまり不自由しないし、どうしても必要な物があつたら代理人に連絡すれば三日以内に持ってきてくれる。至れり尽くせりで、今までの暮らしよりもずっといい。

娯楽施設なんかないけど、もともとあまり行かなかったしね……。

そうだ、自分でも菜園を作ってみたりもして……。

……でも、じいちゃんって何者だったんだろう。

この人たちも、私がじいちゃんの孫だからって良くしてくれるし代理人だって。財に関しては代理人とじいちゃんが一緒に稼いで莫大な蓄えを作ったらしいけど……。全然知らなかった。

何か裏があるんじゃないかって勘繰ってしまふ。

そんなある日、譲り受けた家の屋根裏に古い書物がひっそりと収めてあるのを見つけた。私はものを読むのが好きだ。

特に好きなのは、官能……。いや、なんでもない。

結構な広さだったので、私は屋根裏の埃を払い蝋燭を持ち込み

寝転がってそれを読んだ。

「……………」

なんてことはない。じいちゃんの日記だった。言い回しが古いけど書いてある内容は至って普通……。

「……………!」

読み進めていくと、ばあちゃんとのラブラブっぷりを綴ったものがあった。曰く、「恋は素晴らしい、恋慕は良い。我が子や孫も是非恋をし、人生を華やかにするべきだ。いや、恋ができるだろう。我が子孫なら」的なことが書いてあった。



.....。「年齢＝彼氏なし」の処女ですが何か？

いままでお付き合いしたことないですけど、何か？

.....記憶をたどっても恋らしい恋の記憶なんてございません。

あるとしたら、幼少時代に仲良くなった男の子の記憶くらいか.....。

名前も顔も覚えてないし、おままごとみたいなものだし.....。



「はああああ……」

思わず長い溜息が出た。以前の忙しい仕事に、今の生活の変化で失念してた。恋人作ったこと……ないや……。

しかも、今の生活って出会いがないじゃん……。詰んでない……？

まあ、ちよつと諦めみたいのもあったのよ？私も結構いい年だし…。

実年齢よりも若く見られることは多いけどさ……。年齢的には

とっくに結婚して子供がいて……それで……。

と、失念していた現実打ちのめされていると、じいちゃんの記事の束からバサバサと紙が落ちた。

「……ん？」

……………何じゃこりゃ？

それは、絵だった。描いてあるものは人ではない何かのもの。とか妖怪だ。天狗とかポピュラーなものもあれば名も知らないものまで、結構な量の絵がそこにはあった。他の日記の隙間にもよく見ると同じようなものが……。

……………裏返してみると、文字が書いてあった。ものによっては滲みや傷みがひどいけど、読めないことはない。


「何……？」「スネコスリ……危険度低 夜道に現れる」……？

こっちは……「バク……危険度低く高……悪夢を祓う」……。

「雪女……危険度低く高……可愛い……」……はて……？」

書いてあるのは絵の妖怪の名前と危険度や生態の説明。

実際は読んだものよりもずっと事細かに書いてあった。



「ふふ……。なにこれ……。じいちゃん、こんな趣味があったの……？」
「なんとというか……中学生の黒歴史ノートを見てしまったような……
そんな感覚に似ている気がする。あまりにも、説明が疑ってる。」

『僕の作った妖怪図鑑』ってか……。

「なんやかんや言いながら興味深げに読む私……。」

「お、河童だ。これは有名だよ。なになに……。」

『河童……危険度高……水辺に現れる』

はてな……？人と相撲をとったりと人との交流があるイメージがあるけど……。尻小玉を抜くとか、水に引きずり込むとかするにしても……。他の妖怪画で善悪複数のイメージがあるものは

『危険度低く高』のように書かれているのに変だな……。もう少し読んでみよう。

『獣をくびり殺し、首を刎ね血を囓る姿を目撃した。恐ろしき姿に怪力の持ち主。命辛く逃げ帰る』

……じいちゃん……実際に会ったことにしてるし……。本格的に黒歴史ノートじゃん……。えっと……

『住処………某山麓、地蔵の道から入山し………』

………の順路で辿り着いた川辺にて目撃せり………』

随分事細かに……って……あれ!?

……これ……近くの山のことだ……。麓にお地藏さんがある山……
え？これ、この土地にいるって事!?結構すぐのところよ!?

……いやいや……あくまでじいちゃんの変想妖怪図鑑の話だし、

そこに近所の話を混ぜててもおかしくないって!

……そうそう!いまや科学が蔓延る現代日本で妖怪なんて……
……でも……この住処ってこの前、偶然通ったんだよね……。

ちよつと探検してみようと思って散歩がてら。道があったし、

遭難するようなどころでもなくていい散歩コースだと思って……。

また行こうと思ってたんだけど……ちよつと……見てみようかな……。

いや、いると思ってないよ!?河童なんて。ちよつとついでに少し

見てみるだけ!下準備も何もする必要ないし……うん。

.....数日後.....

例の場所を訪れた。そこには大きな川があり、所々に石が川面から顔を出している。深い場所、浅い場所が極端に分かれており、水の流れも場所によつては違うようだ。渡ろうとすれば大変だろうし、危険を伴いそうだ。

一際目を引くのが、川を中心にある大きな石だ。他の石よりも群を抜いて大きく、大人が数人寝そべっても余裕だろう。

寝そべれると言ったように凹凸が少なく、表面が滑らかだ。

私は、興味半分でその川辺に足を踏み入れた。

……カメラセット完了……木の陰と木の枝によるカモフラージュも良い感じ……。これなら、気付かれないよね……？

あの妖怪絵には道側からは現れないと書いてあった。一応人との線引きがあるということか……？

た、大して本気にしてないけど、もし現れたら……。危険と書かれていたこともあって、私はドキドキしていた。



「……」

待つこと一時間程……向こう川岸の茂みがガサガサと揺れた。
い、いや、狸や狐の類でしょ！河童なんて……。
そう思っているうちに、茂みの奥からその正体が姿を現した。



「う…嘘でしょ…」

緑色の肌…頭に皿…背に甲羅…河童…河童だった。

他には手足に水掻き、尖った耳、やや大きめな口…。

でも、じいちゃんの言っていた恐ろしい姿には当てはまらない。

「…あ…！…あわわ…」

ふと気付いた…。あの河童…丸出しだ…。お、おちんちん…。

いや、当たり前だ…河童が服を着てたりするはずが…。

……。あんなし大きくないけど、歩く度にピコピコ動いて…。

……。いやいや、なにを凝視してるんだ…私は…。





でも、おちんちんがあるって事は…雄…ううん、男の河童なんだ。
見た目、結構人っぽいし…雄っていうより男…河童(男)ね…。
ていうか…なんか可愛い…両手に魚を持って鼻歌みたいの
歌ってる。ご馳走沢山で上機嫌って事なのかな…？
キュルキュル鳴いてるけど…人語は話せない、よね。
見ていると、河童(男)は急流や深さも物ともせず、川に入り、
あの大きな石の近くの中くらいの石の前まで移動した。



すると、河童(男)は持っていた魚を中くらいの石の上に
並べだした。何をしているんだろう...? 丁寧に並べてるけど...
干すのかな...? でも、あれじゃ腐っちゃうんじゃない...
そう考えていると、河童(男)は並べた魚を満足そうに見てから...



キリツとした表情で周りを見渡した。「この魚はおいらのものだ」
とでも言っているのかな?……でも、もとの顔が顔だから、
キリツ(笑)って感じがなんとも……。じいちゃんの絵の説明は
なんだったんだろう……。



「……あれ？」

一連の行動を終えた河童(男)はやりきった表情を浮かべながら満足そうに踵を返し、もと来た方向に鼻歌のような鳴き声を出しながら帰って行った。

……魚、置きっぱなしなんだけど……。

鳥や狸に盗られても知らないよ……？

そんなことを考えていたけど、河童(男)がいなくなったので私も家に帰ることにした。

その日から、河童(男)が面白くなつた私は毎日その時間に川辺を訪れ、その姿を観察した。

やはりあの子は魚を葉っぱに乗せて持ってきてはあの大きな石の周りの中くらいの石の上に並べては帰っていた。

……しかし、言わんこっちゃない……。来る度に前目置いておいた魚は、骨も残さず消え去っているのだから……。

それでも毎日魚を置く……。もしかしてアホの子なのかしら……。

初目撃から一週間……。いつものように川辺に訪れたが、いつもより時間が遅れてしまった。実は、じいちゃんが遺した畑があって、枯れかけていたのを世話していたのだ。

私に来るまでは、代理人さんがちよこちよこ世話をしていたらしいけど、私がなかなか気が付かなかったから危なかった。

しかし、ざりざりセーフだったのか、今日きゆうりの花が咲いているのに気が付いたのだ。嬉しくなつてつい遅れてしまった。まだあの子はいるだろうかとゆっくり覗き見ると……。

「……！」

あの子ではない別の河童がいた。大きな石の上で、河童(男)が持ってきたと思われる魚を食べている……。こいつが犯人か……。

……こっちは雌……。いや女の河童みたいね。河童(女)……。

つまり、河童(女)は河童(男)が日常的にここに魚を運ぶのを知っていて、河童(男)がいなくなった辺りで姿を現し、横取りしていたんだ……。





河童(女)は魚を嚙下するとクルルつと鳴き大変ご満悦だと言わんばかりに表情を緩めていた。ああ……河童(男)の獲ってきた魚が次々と河童(女)の胃袋の中に消えていく。

あの魚を抱えて上機嫌な表情を浮かべていた河童(男)の姿を知っているだけに、なんか胸が痛い……。



が、その思いも虚しく河童(女)は魚を全て平らげてしまった。

魚が乗っていた葉は、川に流されてあつという間に消えていった。

魚で腹が膨れた河童(女)は、大きな石の上でくつろぎだした。まるで縁側で日向ぼっこをするかのように足をぶらぶらとさせたり空を仰いだりとどこか人間らしくも思える動作を繰り返している。

しかし、河童(女)も河童(男)同様モロだしだ……。おっぱいも、アソコも……。
見た目が人間に近いだけあって牛のおっぱいとかと同様には見れない……。

ヌーディストビーチってこんななのかな……。？

無防備に晒し出して……。男を誘惑して……。それで……。それで……。

……。！……。馬鹿か、私は……。

しかし、河童(男)は用が済んだら早々に立ち去ったけど……。こっちの子は
随分と居座るんだな……。



あ…大きなあくび…。

お腹がいっぱいになって眠くなったのかな…？

ううん…あくびする姿も人間味あるな…。

ていうか、やっぱり、じいちゃんの絵にあつた説明とはぜんぜん違うじゃない。

危険度高で、獣の生血を啜る…。そんな様子もないし、のんびりしている。

…やっぱりあれはじいちゃんの妄想図鑑で、実際にいたのは偶然だった…

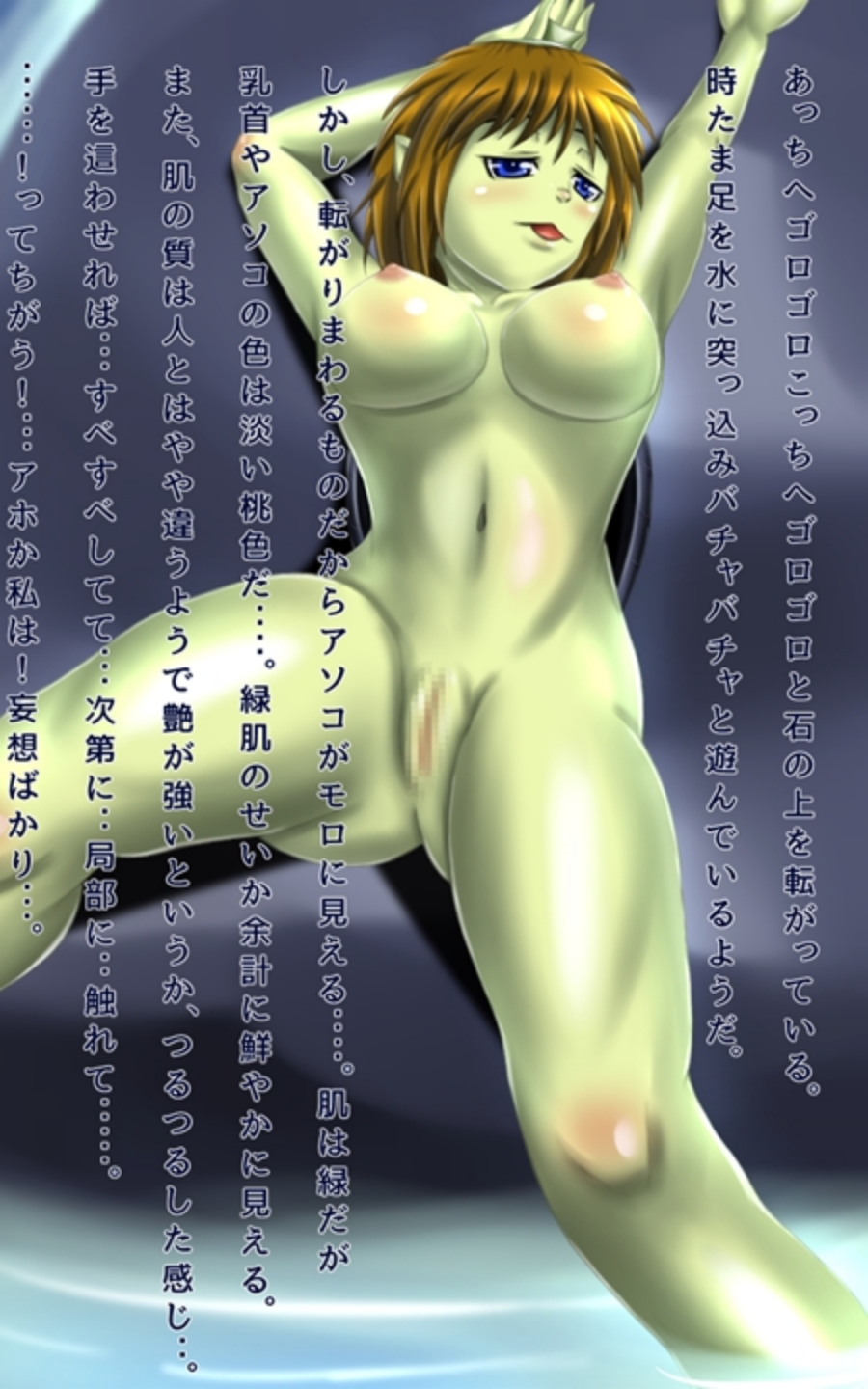
てことじゃないかな…？



当の河童(女)は本格的に眠そうだった。もともと眠そうな顔をしていたが、それを更に眠そうにして口をムニヤムニヤとしている。

そして、ごろんと大きな石の上に仰向けになった。





あっちへゴロゴロこっちへゴロゴロと石の上を転がっている。


時たま足を水に突っ込みパチャパチャと遊んでいるようだ。

しかし、転がりまわるものだからアソコがモロに見える……。肌は緑だが

乳首やアソコの色は淡い桃色だ……。緑肌のせいかわりに余計に鮮やかに見える。


また、肌の質は人とはやや違うようで艶が強いというか、つるつるした感じ……。手を這わせれば……。すべすべしてて……。次第に……。局部に……。触れて……。

……。！ってちがう！……。アホか私は！妄想ばかり……。



しばらく石の上で一人遊びをしていた河童(女)だが、次第に目がトロンと
してきた。眠気がどんどん増しているといったところか……。

とつとと眠るなり、帰るなりすればいいのに、何で一人遊びしながら我慢
みたいな事をしているのだろう……？そして……。




遂に河童(女)はコテンと眠りに落ちた。やはり、「恐ろしい」という言葉が
どうやっても当てはまらない。無防備で、とても安らかな寝顔でビュルルと
寝息を立てながら呼吸のたびにツンとした乳房が上下に動いている……。

こんな生き物が獣の首を刎ねた挙句、生血を啜るなんて想像もできないよ……。
ていうか、生血じゃなくて魚食べてたじゃない……頭からパリパリいつてたけど
生血を啜るってのは流石に……。



そうこうしている間にも河童(女)は穏やかな顔で、安らかな寝息を立てている。……正直、気持ちよさそうだ……。下が石でなければ贅沢なお昼寝空間じゃないか。川のと真ん中で、大自然の中で のんびりと昼寝……。困みには夏なのだが、この川周辺は妙に涼しい。だからこそ、ここでの昼寝はいやに気持ちよさそうだ……。



河童(女)自身も快適なのか、いい表情で寝ている。
ムニヤムニヤと口を動かしたり、瞼がピクピク動いているあたり、
何か夢を見ているのだろうか？
犬なんかも夢をみるらしいけど
河童もみるみたい…。

「!?」

その時、河童(女)の表情が一変した。なにか、切羽詰ったような、「うぬぬ」とでも言いそうな顔を شدした。

……な、何事……？



そう思ったと同時に河童(女)はビクツと体をはねさせた。

「……………プツ……」

思わず失笑してしまった。……………これ、アレだ……。

高いところから落ちる夢とかみて、

地面に叩きつけられる瞬間にビクって

なる…アレ。

「……………プツ……………」

本当に人間味あるなあ…。





そして、河童(女)は目を覚ました。そして、どこか恥ずかしげに
周りをキョロキョロとしている。

……これは……河童には恥の感情があるって事だ……
意外な発見……。意外と知能が高いのかも……。

その後、河童(女)は再び眠りに

落ちたので、私は家に帰ることにした。

そして、更に数日間の観察……。

河童(男)が魚を運び、それを河童(女)が食べくつろぐ……。

その繰り返しだった。なんで河童(男)は魚がなくなっても懲りずにまた持つてくるんだろう……? やっぱアホの子なのかしら……? なんにしても不憫だなあ……。

そしてある日、またも畑の世話に夢中になって、いつもの時間に遅れてしまった……。遂に、きゅうりとトマトに実がなったのだ……。

感無量……。だけど、その結果いつもより大分遅くなって、

私は息を切らせながらいつもの定位置から川を覗いた。